

別紙 1

論文審査の要旨

報告番号	①・乙 第 2729 号	氏 名	猪 聡志
論文審査担当者	主査 吉田 仁 教授 副査 小風 暁 教授 副査 中館 俊夫 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>経口免疫療法は免疫疾患に対して効果を示し、炎症性腸疾患に対する効果も期待される。しかし潰瘍性大腸炎類似のデキストラン硫酸ナトリウム (Dextran Sulfate Sodium ; DSS) 誘導性腸炎の活動期に経口免疫寛容が誘導可能かどうかは不明である。</p> <p>本研究は DSS 誘導性腸炎活動期の経口免疫寛容とその誘導に關与する制御性細胞やサイトカインの変化について検討したものである。</p> <p>DSS を自由飲水下で投与し腸炎を誘導した。卵白アルブミン (Ovalbumin ; OVA) を経胃投与後に OVA とアジュバンドの腹腔内注射により感作し、感作後血清 OVA 特異的 IgE 抗体を測定する実験系で、腸炎活動期にも経口免疫寛容は誘導されることが明らかになった。腸間膜リンパ節で CD4⁺CD25⁺Foxp3⁺細胞や IL-10 産生性 B 細胞の割合に変化はなく、サイトカインにも有意な変化を認めず、免疫学的恒常性が保たれていることが明らかになった。</p> <p>活動期 DSS 腸炎に経口免疫寛容が誘導可能であることを初めて明らかにした本論文は、新しい知見を有し、学術上の価値があり、学位論文に値すると判断した。</p>			
<p>論文題名 : Oral tolerance is inducible during active dextran sulfate sodium-induced colitis(活動期デキストラン硫酸ナトリウム誘導性腸炎モデルにおける経口免疫寛容)</p> <p>掲載雑誌名 : World Journal of Gastrointestinal Pharmacology and Therapeutics 2016 年掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)